



【寛容の力と祝福】

聖書：創世記13章：1-13節 / 暗唱：ピリピ人への手紙4章5節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

去った一週間もみんなお元気でしたか。主の平安で守られましたか。緊急事態宣言がさらに延長されることになり、とても残念ですが、引き続き格別な主の御守りと御助けを心からお祈り申し上げます！

一週間、みなさんは神様とも関係をどう保って歩いて来られたでしょうか。今もなおともに生きておられる神様から日々どのような恵みを頂き、体験していらっしゃるでしょうか。また始まる6月中にも各家庭で、教会で集っているみなさんとご家族の上に主の深い導きと見守りを、すべてを益とさせ、良くして下さる主の豊かな恵みを心よりお祈り申し上げます。

1. 所有物が人間関係において葛藤の原因となる場合が多くある

信仰の生活の中で一番大切なのは何でしょうか。この質問に我らのクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族はみんなほとんどご存知でしょう。そうです。マタイの福音書22章35-40節の御言葉を通して関係が一番大切であることを学んで来ています。神を愛する関係と同時に隣人を自身のように愛する関係を保つことが同じく大切である！今まで我々は身近に夫婦関係や親子、家族との関係からはじめ、自分とは違う個性を持っているいろんな人と関わりながら、時には悩み、時には疲れや人間関係の難しさをよく体験して来られたのではないかと思います。

円満な人間関係を保つためには人間関係を崩す多様な原因を知らなければなりません。今日は特に私たちの持っている所有物というものが人間関係を大きな影響を与え、時には崩してしまうことができるという事実をアブラハムのお話を通して学んでみたいと思います。実際に昔も今も所有の問題が原因で大切な関係が崩れてしまいやすくなるのかをよく耳にしているでしょう。

いくら良かった関係もどちらの所有権になるのかの問題で小さくは子供同士で喧嘩するし、家族や兄弟関係みたいな血筋のような大切な関係さえも割れさせてしまう時がしばしばあります。

それを考えて見ると、所有物や物質が増え豊かなになる事が必ずしも神の祝福だとは言えません。聖書ででも必ずし物質という物が増え豊かなになる事が神の祝福の尺度だとも語っていません。却って、多くの物質のため、人は高慢になりやすく、それによって神様を背き、神様を信じ頼ることが出来ないように妨げになる場合もあり、人との関係にも疑ったり、人のために分け与え仕えようとするより、もっとそれをぎゅっと握り締めようとしながら人との関係にも壁を作ってしまう人との関係に妨げにもなる場合もよくありではないでしょうか。人は物質が多ければ、まるで自分は何でも出来るかのように、何でも人さえも自分の所有物が出来るかのように錯覚したり、もう自分は偉いものかになったようで、神なんか何も要らないと思われ、神に謙遜に信じ頼りつつ従おうとする姿勢を保つことがなかなか妨げにもなる場合が多くあります。そして、人の心にはあっても自足できずに、もうちょっと、もっと欲しがると欲張りがさらにふくらんで絶え切れないのでしょうか。

しかし、みなさん！ここで誤解してはいけない事がクリスチャンたちにとって豊かな所有物自体が罪とか、設けてはいけないわけでは決してありません。結局、それに対し扱う我らの信仰と姿勢が大切である事が分かります！なので、箴言17章1節では、「乾いたパンが一切れあって平穩（和睦）なのは、ごちそうと争いに満ちた家にまさる。」

所有物質に対してのあの有名なアグルという人が生涯神様にこう祈られました。箴言30章7-9節です。

「二つのことをあなたにお願いします。私が死なないうちに、それをかなえてください。むなしいことと偽りのことばを、私から遠ざけてください。貧しさも富も私に与えず、ただ、私に定められた分の食物で、私を養ってください。私が満腹してあなたを否み、「主とはだれだ」と言わないように。また、私が貧しくなって盗みをし、私の神の御名を汚すことのないように。」*「私に定められた分の食物」=マタイ6章11節の主の祈りの中「私たちの日

ごとの糧を、今日もお与えてください。」と物質に対する同じ祈りではないでしょうか。(多すぎるのが決して祝福ではない、日々必要な分で自足、神が必ず必要なすべてを必ず与えて下さるので、日々頼り、与えられたもので満ち足りる信仰) 我々も物質に対してこのような信仰の姿勢と祈りを大事に保って行きましょう。

今日の本文に戻って、アブラムがカルデヤ人のウルから出た時、おいであったロトをも一緒に出かけたと書かれています。ロトはアブラムとともにしていながらいろいろな神様の祝福も一緒に受けました。神様がアブラムを祝福して下さったため家畜も、銀も金も非常に豊かでした。そしてアブラムと一緒にだったロトの所有物もたくさん増えました。ところが、その結果、二人の間は葛藤が始まります。本文の6節をどなたか読んでくださいますか。

「その地は、彼らが一緒に住むのに十分ではなかった。所有するものが多すぎて、一緒に住めなかったのである。」アブラムとロトの間に問題が生じたのは自分たちの所有物が多くなったからです。所有物のため、アブラムとロト家畜の牧者たち同士の争いが多く起こった(7節)ことが分かります。

この時、信仰の人アブラムはこの問題の解決のために介入します。彼の人柄、タイプは所有より関係をもっと大事にする人であることが分かります。所有より平和な関係をもっと大切に思っていた人であることが分かります。アブラムはロトに心広く寛容を施します。そしておいロトに先に良い地だと思われるところを選ぶように機会を与え、ロトは先に良い地を選んで移りました。結局二人は多くなった所有のために別れることになります！

今日夫婦のケンカや他の人との関係の大変さを経験された方々の中、持っている金や所有している何かの物で、争ったりする場合があります。自分に益なのか、損なのか所有している物質というもので、関係にどれほど大きい影響されている場合があるでしょうか。最近コロナ禍の長期化の中、多くの夫婦たちの場合も経済的な面や物質の面の足りなさや厳しさから来る苦しみと葛藤が結構多いです。自分の所有権を守るため、家族、兄弟、夫婦の間さえも激しく争ったり、離婚にまで至ったり、自分の所有が少なることで不満をもち、所有がたくさんあっても、お互いの間のだれの物かの所有権のことでよく葛藤を覚えたりもするものではありません。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！確かに人に物質の所有問題はたしかに大切で、必要です。するとどうすれば、所有物から来る人との関係の中での様々な問題と葛藤を共に克服し、大切な関係を保ち、あるいは関係の回復を目指して行けるのでしょうか。

2. 寛容の力を通して人との関係の葛藤や問題を克服する。

アブラムはお互いの所有物が多すぎて、争いが起こった時に、おいロトに平和な関係を保つために寛容を施します。なぜなら、アブラムは多くの所有物より、関係を大事にする人だったからです。アブラムはロトとは違って自分の所有物に執着するのではなく、関係が崩されないように先にロトに先に譲っています。本文の13章8節をご覧ください。「アブラムはロトに言った。「私とあなたとの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちの間に、争いが無いようにしよう。私たちは、親類(しんるい)同士なのだから。」

アブラムは葛藤と争いが続くことにより、大切な関係が壊れないように、当然自分が先に取りべき権利を、先にロトに譲りながら提案を出しています。それに自分より若いおいロトにさきに大事な土地を選択する機会をあげています。13章9節をだれかが読んで下さいますか。「全地はあなたの前にはないか。私から別れてくれないか。もしあなたが左なら、私は右に行こう。もしあなたが右なら、私は左に行こう。」

この提案に対してロトはまずもっと良い地を選びます。人として、普通に考えて見れば、アブラムのおいであるロトは本当にぶしつけな人ではないでしょうか。ロトが今まで成長され、守られ、財産もたくさんもうけることが出来たかにはアブラムの存在の支えと助けがあったのに間違いありません。アブラムのおかげで今まで小さい頃アブラムについて来ながら、自分を育ててくれた、多くの愛と恩恵を受けてここまで成長され、また自分の家庭も作り、多くの財産も手に入れることが出来たでしょう。人としてはロトこそ、先にアブラムにどうぞお先に良い地を選択する機会を譲るべきだったのではないのでしょうか。たとい、アブラムがロトに選択の機会を先にあげたとして

も今までの愛と恩恵を忘れず、礼儀として、断わるべきだったのに。。。ところが、ロトは自分の目の前の得られる有益しか考えてません。それで当然かのように良い地を先に選んで、さっさと離れて進んで行きました。

みなさん！ロトが恩知らずとても人として資格喪失なめっちゃ悪い人だと思われるでしょうか。

でも、実はロトのようなずるい姿こそ、ある意味で私たち人間みんなが普通に持っている本当の姿ではないかと思われまます。ロトの姿こそ神の前での今の自分自身の姿ではないでしょうか。今まで自分の力ではどうしようもできない時、多くの神の助け、恵みと愛と救いを頂きながら、守られ、ここまで導かれているのにも関わらず、自分は少しも損したくない！益となることには素早く、絶対自分は損は受けたくない自己中のでけちな人が我らではないでしょうか。神の願いよりも、またすぐ目の前のいくら利益を計算して先に求め、要求したりします！

今まで神の恩恵は、助けと愛は、当たり前かのように思い込んで、すぐ忘れてしまい、神を背いてでも、しばらく神から離れても、目の前にある有益ばかりを欲しがらる姿が、我らにはなかったでしょうか。

しかし、信仰の人アブラムはおいロトとは違いました！最後まで、自分中心ではない、ロトのため、相手中心に考え、相手との関係を保つ為に先に自分の権利と利益を譲りました。これこそ、真の寛容の姿ではないでしょうか。

< 3. 聖書が教える真の寛容とは? >

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！聖書で教えて下さる寛容というのは何でしょうか。ピリピ人への手紙4章で使徒パウロはピリピにある教会の信徒たちにむかって2節で「あなたがたは主にあって同じ思いになってください。」とすすめながら、そこでとどまらず、5節で、「あなたがたの寛容な心が、すべての人に知られるようにしなさい。主は近いのです。」と勧めました。神を信じる人々、自分が属している教会や家の教会の牧場で同じく寛容な心を保ち、他の人々にそれを知らせるように行う事を主は望んでおられると教えて下さっています。そして、もう一つ、注目すべきところはただ自分と親しい人たち、気が合う人たちだけではなく、「すべての人に」キリストを信じる者として、寛容な心を知らせなさいと命じられているところです。つまり私たちがクリスチャンとして寛容をあらわすべき対象は、親しい人たちや自分が好きな人たちだけではなく、神を信じなくても、自分と関係が悪くとも、だれにでも制限なくすべての人に寛容な心を表すべきだと命じて下さっているのです！

この寛容と言う言葉はギリシャ語で<エピエイケイス>でかかれています。その寛容という意味は「もっと大きな目的とビジョンを成すために、自分の意見や事を譲る心(yielding heart), 相手が自分にどのようにふるまうのであれ関係なく、相手に親切でやさしくする姿勢(gentle heart), そして相手の過ちと弱点が見えてもそれを大目で見えて赦す姿勢(forgiving heart)だ」と翻訳される言葉です。真の寛容は人を立たせませす！相手の立場に立って理解しようと意識的に努力します！自分と違って、いやな思いをさせた人であっても優しく親切に接します！相手により、自分が損を受けたとしても憐れみ赦す心と姿勢を示すことが寛容であります。もっと大きな目的とビジョン、夢のため自ら先に譲ってあげます！人だれにもある短所、人の足りなさを見ようとするより、長所をより大きく見てあげる姿勢が寛容な姿であると言われてます。

みなさんもよくご存じのように、ガラテヤ人への手紙5章22-23節の御霊の実9つの中で四つ目の御霊の実として訳されているこの寛容という単語は原語のギリシャ語の聖書では、「マクロスミア」、英語の聖書では忍耐(patience)の意味が強い単語で使われています。ヤコブ人への手紙5章7節~11節の御言葉では「耐え忍ぶ：つまり、長らく忍耐してあげる、信じて長く待ち望み続ける心、長く待つてあげられる心、最後まで赦そうとする姿勢」を意味する事です。一言で言うと、「最後まで諦めない心と耐え忍んであげる姿勢」(第二ペテロの手紙3章9節)だとも言えるでしょう。

私たちはイエスキリストを受け入れ信じているクリスチャンとして、接し、関わるすべての人々に優しくし、こころよく譲り、赦し耐え忍ぶこの寛容の姿勢を知らせるように教えて下さっているのです。しかし、今日私たちが会

っている人々の中にはみな傷があります。痛みがあります。なのでなかなかすべての人に寛容を示すことがなかなか難しい時もあるでしょう。アブラムのように、恩知らず、無礼なおい口トに対し自分が損を受けながらも赦し、先に譲る事は決して容易いことなく、なかなか難しいことではありませんか。

成熟した信仰のクリスチャンの共通点は、自分には厳しく、他の人々には大目で、心広く寛容を示そうとします！自分も変わらない、違くない同じ足りない者である事を神の前でよく自覚し、悟っているからです！

しかし、まだ信仰の未熟な姿は真逆でしょう！自分には大目で寛大にするのに、他人の弱さ、欠点、短所に対してはいつも厳しく批判し、評価しようとするのではありませんか。自身の基準で、自分がもっと、より偉い者だと錯覚し、思い込んで入るからです！神の前で自分が他のひとより、もっと優れた者だと思い込んで入る時こそ、神の前で霊的に高慢になっている危ない状態であることを我々はいつも忘れてはいけません！ですから、寛容な実が豊かに結ばれている方々はいつも神と人の前で謙遜であります！

愛する信仰の家族のみなさん！人はだれでも、子供さえも良く感じて分かっています。足りない自分であるのにも関わらず、よく心温かく受け入れて下さっているのかどうかを。だからこそ、隣人、他人をむやみに扱わないように、勝手に、言わないように気をつけましょう。すべての人に寛容な心をもって接し、施し、あらわす者になりましょう！真の愛について、コリント人への手紙 13 章 4 節ではこう教えて下さっています。「愛は寛容であり、愛は親切です。」

今日アブハムを通して、大切な関係を望む人がこの寛容を具体的にどうやって人々にあらし、実践すべきなのかを学ばされます。

①寛容を実践する為、自分の執着していることを手放す必要があります。

私たちの問題は何かにすぐ執着しやすい存在です。アブラムの生涯は執着(地、所有物、おい口ト)を捨てることによってさらに大きな祝福を受けました。実はアブラムは、だれよりも口トを愛していました。神の命令により生まれ故郷を離れて出かけたころ、おいであった口トは幼い時期でした！異国の地でおい口トはアブハムにとって、自分の息子のように大きい喜びとなり、自分の子供のようにかわいがってあげて育てたはずです。そのような口トがいつの間にか成長し、結婚して自分の子供を産み、今はアブハムと比べられるほど金持ちになりました。アブラムと口トの所有が多すぎて争いが多くなった時、アブラムは口トに対する執着にならないように、そして彼を送り出し、独立させます。もうこれ以上自分のもとにある者はない、自分がもうこれ以上左右できる存在ではない、彼のために彼は自分が損を受けながらも、彼に選択権を先に上げて自立させました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ここで寛容というのはまず、自分の中にある執着を捨てることから始まることであることがわかります。集中することと執着することとは相当の差があります。

何事でも熱心に集中する姿勢は大切ですが、執着は私たちを病気にかからせます。執着は私たちの目を暗くさせ、鈍感にさせます。執着が寛容の実践を妨げます！なかなか人は自分に執着している事があると、その問題に関わる場合になると、すぐ他人に過剰(かじょう)に敏感になったり、なかなか赦せなくなったり、自分の手をさらに握ろうとし壁を作ろうとします。

執着のいろんな原因と理由の中、大きな一つの原因は自分の絶対的な所有物だと思い込んでいるからでしょう。

ある人には子供が、妻、家族とか、お金や何かの物(ゲームやSNSなど)、自分と関わっている人や集いなど、結局そのような人々には自分が許す通り、思う通りの範囲でしか認め、理解しようとしません。

みなさん！私たち人間には人でさえも自分の所有物としようとする欲張りを持っています。そういうわけで、時には過剰保護する場合もあります。自分の手から離れないようにもします。すべての人を自分の思う通り動かそうとします。しかしこれはまことの愛ではありません。愛をするためにはだれも自分の所有物として扱ってははいけません。ですから私たちは日々、自分が執着していることが何かを知り、それを大胆に手放さなければなりません。

***執着から乗り越えられる方法：全ては自分の物ではなく、神のものであり、しばらく預かっているものとして信仰**

が必要で大切です！

一度自分の執着したものを手放すことがある人は次の時はもっと、たやすく執着したものを手放すことができる者になれます。アブラムは愛するロトに対する執着を手放した経験があったため、後になって愛するひとり子であったイサクでさえも惜しまずに神様の御手にささげ、委ねることができる信仰の人となられたことを覚えてください。

ロトも、全ての自分が持っている今の全ての所有も神からのしばらく預かっているものであって、いつまでも自分の所有物ではないという信仰がアブラムにあったからではないでしょうか。

結局、そのアブラムは執着できそうなものを手放すことが出来、さらに大きい祝福を受け、ついには偉大な信仰の父となりました！今日みなさんが生活の中で神様に明け渡さないで、自分で握ろうとしている何かはありませんか。みなさんが執着しているものは何でしょうか。いまその小さい執着から捨てることが出来るのでしたら、これからはその執着から与えられる喜びと楽しさとは比べられないほどの喜びと満足に満たされるように神様が祝福してくださると信じます。

②寛容とは、相手の立場に立って見て考えて上げる、そして両手を広げることです。

アブラムは両手を開いてロトを送り出しています。アブラムはおいであるロトと接する時に、まずロトの立場を考えています。ロトがもう成人になっていること、ロトももう離れる時が来たという事実、ロトも今からは独立する必要がある時であるという事実を認めています。寛容を施すというのは相手に自分の考え、自分のやり方を強制することではありません。むしろ相手の立場と状況に立って考え、理解しようとすることです。

成熟した人間関係のためには、成熟した愛するやり方が必要です。それは何ですか。相手の対象がもっと成長出来るように、自立出来るように助けてあげることです。相手を成功出来るようにさせる人です。今日、神様はきゅっと握り締めている自分の手のこぶしを開くことを願っておられます。ある意味で私たちに力がなくて問題ではなく、力があまりすぎて問題ではないかとも思われます。握り締めている両手を開く時、開いている両手に神様はさらなる祝福を注いでくださいます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ですから所有しようとか、コントロールしようとか、強制しようとしないうちに気をつけましょう。他の人についてむやみに話したり、容易く判断したり、責めないように気をつけましょう。ただ哀れむ心を持って弱い者を励まし、たすけてあげてください。ほかの人の苦しみと傷のある心の痛みを気をつけながら支え、抱いてあげてください。自信をなくしている心、絶望の中で自分をあきらめようとしている人々に光と希望を諦めないように進んでいけるように仕え、そばに行きつけて共にしばらく歩んであげる私とみなさんとなるように心かけましょう。自分の小さな手ではありますが、一人の人がついに回復し、飛び上がることができるその日まで祈りつつ期待をもってあげましょう。みなさん！諦めないで下さいね。

③寛容は全ての人に親切と祝福を示し続けることです。

「あなたがたの寛容な心が、すべての人に知られるようにしなさい。主は近いのです。」（ピリピ4章5節）

」

寛容は相手に親切と祝福を施すことです。親切と祝福は人を生かします。寛容とは恩知らず人でさえも、自分のことしか知らないずるい人さえも、親切にし、祝福を心から祈ることです。

今日の信仰の人アブラムはおいであったロトと別れる時、ロトに最後まで親切にあらわし、祝福しながら見送りました。私は出来るだけ出会う人々にみんな心から神の祝福を祈ろうと努力して来ましたが、なかなか難しい時もよくあります。しかし、最後には神の祝福を求め、祈る理由はそうする自分も神様の祝福を受けるからです。それで結局今日アブラムは神の祝福の源になる信仰の先祖となったのではないのでしょうか。

今日本文以後のアブラムとロトの生涯の後を追求しながら、じっくり聖書を読んで見て下さい。

寛容を施したアブラムはどこに行っても豊かな生涯を送りますが、ロトの生涯は悲惨に終わってしまいます。

愛する信仰の家族のみなさん！必ず、後で寛容が勝ちます！愛が勝ちます！アブラムは信仰の先祖になる祝福を受

けます。私たちは信仰によって、アブラム(アブラハム)の子孫になったと聖書は教えて下さっています(ガラテヤ3:7「ですから、信仰によって生きる人々こそアブラハムの子である、と知りなさい。」)信仰によって私たちもアブラハムの祝福にあずけられました(ガラテヤ3:9「ですから、信仰によって生きる人々が、信仰の人アブラハムとともに祝福を受けるのです。」)。アブラハムとともに祝福を受けた私たちですので、私たちもアブラハムのように祝福の源になる生を送るべきではないでしょうか。アブラハムのように寛容を施す者になろうではありませんか。

<4. 寛容を施す時、損を受ける時もあります>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

クリスチャンである私たちは神様のしもべであり、隣人のしもべになる人です。

つまり、神の御心と御言葉に従う存在であり、他の人たちが成功できるようにキリストの愛と祝福を持って助け、仕える存在であります。

寛容とは自分より他人が偉くなるようにさせることです。他人が成功させることです。しかし、他人を潤わせることにより、自分たちもさらに潤されること、これが寛容の法則だと信じます。しかし寛容を施す時には落胆する時もあります。他人のために寛容を施す時に、今日アブラハムのように自分が損害を受けることもあるでしょう。

寛容を施したアブラムも損害を受けました！潤った地をおいであるロトに譲ってあげたことはすばらしいことですが、自分には潤ってない地で暮らすべき損になることでした。しかし私たちは落胆してはいけません。寛容を施すとすぐには損を受けているように見えますが、さらなる祝福を受けることであることを忘れないでください。

一時的には損を受けるように見えますが、信仰の次元ではすばらしい祝福を受けることになります。聖書をご覧ください。ロトと別れた後、神様はアブラムを呼び出します。そして彼にすばらしく祝福を注いでくださいます(創世記 13:14-17)。寛容の法則は蒔いた分を刈り入れますが、さらにおおくのもの刈り入れられると信じます。

「おおらかな人は豊かにされ、他人を潤す人は自分も潤される (箴言 11:25)」

「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺って入れたり、盛り上げたりして、気前良く量ってふところに入れてもらえます。あなたがたが量るその秤(はかり)で、あなたがたも量り返してもらるからです。(ルカ 6:38)」

障害者だったヘレンケラーはこの有名な言葉を残しました。

“人生とはとってもすばらしいものだ。しかし一番すぐれた人生は他の人々のために生きる人生だ。”

私たちがイエス様を心から信じている者であるならば、日々この質問を自分自身に聞かせるものではないでしょうか。“今日私は他の人のために何をしたのか。”

<まとめ>メッセージを終わらせます。今みなさんの持っている物を持って人々を愛してください。人は所有の対象ではありません。人というのは愛と寛容の対象である事を覚えましょう。私たちがもっている所有物は大切ですが、執着はしないでください。所有物に執着すると所有の奴隷になってしまいます。アンドレ・ジドーという方の話を聞いてみてください。“完全な所有とは与える行為を通して、ようやく証明される。あなたが施さないで、わしづかんでいるそのすべてがむしろ、あなたを所有するようになるだろう。”

所有の奴隷にならないで、所有のために生きる者にならないで、所有がみなさんに仕えるようにさせてください。人は愛の対象です。両手を開いて譲り、分け与え、助け、仕えて生きましょう。みなさんはイエスキリストの便りであり、イエスの顔であり、イエスの手足であり、イエスの姿である事を心に留め忘れないで下さい。今週から始まる6月にもできるかぎり寛容をしめす者になりましょう。物質で、言葉で、行動で寛容を知らせ、祝福を祈り、神様からの豊かな祝福を受けるクリスチャンプレイズ全神の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！